

吉和小・中学校の学校規模適正化に関する保護者説明会 要点

- 1 日 時
令和8年5月29日（金） 午後7時00分～午後8時30分
- 2 場 所
吉和ふれあい交流センター 2・3研修室
- 3 出席者
地域住民：23名
市教育委員会事務局
畑板教育部長、上田教育総務課長、古井学校教育課長、
臼井学事・食育推進担当課長、教育総務課 川本事業調整監、西尾係長
- 4 会議内容
 - ・出席者紹介
 - ・教育部長挨拶
 - ・学校規模適正化に関する説明（PowerPoint のとおり）
 - (1) 子ども達にとって望ましい教育環境を確保するために（事業調整監）
 - (2) 統合に伴う通学支援について（学事・食育推進担当課長）
 - (3) 佐伯地域の小・中学校の指定用品について（学校教育課長）
 - ・質疑応答・意見交換
- 5 質疑応答・意見交換の要旨

保護者A	こどもが何人くらいいれば学校を維持できるのか。
事務局	複式学級の解消を目標としているので、1学年約10人が目安になる。2つの学年で16人以下の時に複式学級になるため、単純計算で1学年8人が必要で、1つの目安として各学年9人以上いれば複式学級を解消できる。
保護者B	現在、3歳のこどもがいるが、統合には反対の立場である。 津田まで通うことは地理的、地形的に遠く感じているが、戸河内への通学は可能か。
事務局	学校規模適正化の観点でお答えする。吉和地域から最寄りとなる、安芸太田町の筒賀小学校の状況は確認している。すでに複式学級が発生しているため、筒賀小学校へ通学していただくことは考えていない。 制度上、区域外就学という制度はあるが、行政区域をまたいで転居した

事務局	場合に、その年度内であったり、学年によっては卒業するまで従前の学校に通うために適用することが多い。 自治体もそのような規程を設けているので、区域を越えての通学について、現行の規程で可能か、規程を見直す、策定することで出来るようになるのか可能性を含め、調べていく。
保護者A	学校がなくなると若い人が出ていってしまい、地域が衰退してしまうのではないかと。 自分は大規模校で同調圧力を感じながら周りになじめずに育ってきたので、いまの小規模校ならではの家族のような雰囲気は素敵だと感じている。 みんなが同じ年齢の社会はない、色んな年齢の人達と関わっていくことになるので、教室内でこどもの年齢が違うことは別におかしなことではないのではと思う。 また、小規模校で育った友人から、家族みたいで楽しかったと聞いてうらやましかった。家族のような関わり方が出来る環境はとても価値のあるものだと思う。
事務局	地域の関わりがなくなるわけではない。学校運営に当たっては、学校運営協議会と地域学校協働本部が一体となって運営しており、地域で子ども達に関わるというところは、今後話し合いながら大切にしていきたい。 吉和学園のアットホームな雰囲気は学校の特徴でもあり自分たちも大切にしていきたいと考えているが、人数の多い学校においても、学年を超えた縦のつながりを築いていく取組は行っている。 同じ学年、学級単位で同じ内容を学び、考え方や感じ方の違いを認め、考えを深めるためには、一定程度の集団規模が必要である。 いろんな不安に対して、統合前から相談に応じ、統合先の学校と共有しつつ、職員の体制等も検討していきたい。
保護者C	何回か参加させてもらっているが、質問したことに対しての回答が1回もないので、ある程度具体的な回答がなければ不安を解消していくことは難しい。前回制服について質問させてもらったが進展はどうか。こちらのアクションに対して答えが返ってこないとも人も集まらない。それで説明会を何回開催したという報告を上げられても納得するのは難しいと思う。 皆さん時間作って来ているわけで、それはおかしいと思っている。 自分の中ではおそらく賛成反対というところでも、動き出すものなんだろうなと思っている。正式に統廃合される前に、早い段階で統合先の学校へ行って友達を作っておきたいとか、中学校3年生になる受験の年に環境が変わるのは怖いので、早めに転校させることも考えるが、統廃合前の転校は通学支援の対象になるか。

事務局	統合先として予定している津田小学校は、今年度から小規模特認校として運用を開始し、市内全域からの通学が可能となった。これに合わせて、遠距離通学の補助対象となる制度を見直しており、補助が可能である。佐伯中学校については、そういった制度の適用がないため、現時点で補助の対象ではない。 従来の通学区域の弾力化制度を使って、入学のタイミングで通う学校を変更することはできる。
保護者C	実際うちの子は6年生だが、1番怖いのは中学2年生の時から3年に上がる高校受験のタイミングで、統廃合により学校に行けなくなったとかは避けたい。それはないようにしますと言われると思うが、これは誰も確約できない。そういうことを見越して早めに対応する人に対しても、話を出してきたのだから対応して欲しい。 多分すぐには答えられないと思うが、そういうことも検討してもらいたい。こども達の状況によって、親がどう思うかその辺も考えてもらいたい。
事務局	先日の制服の話について、具体的な回答ができておらず申し訳ない。統合の話を進めていく中での対応について、制服を含めまた回答させてもらう。
保護者D	スクールバスについて、事故等が起こった場合、添乗員がいなければ対応ができないのではないかと。こどもが車内で吐いてしまった場合など、運転手だけでは対応できないこともあるのではないかと。
事務局	他県でバスの事故も起こったので不安に感じることはあると思う。現時点で、バスの運行についてはバス会社に委託するので、安全な運行については確保できていると考えている。
保護者D	一般のバスであれば、運転手以外にも大人が乗っていることがあるが、スクールバスはこども達だけになるので、添乗員をつけてほしいと思う。
事務局	今の時点で、全国的にいろんなところスクールバスを運用されている自治体を調べたりしているが、添乗員をつけるというのは、自分が確認した限りでは事例がなく、そこをベースには考えている。ただし、広島県内でこれだけ長い距離を通学する事例もあまりないという中で、どこまでできるかというところを考えていきたい。 添乗員（支援員）の配置については、バス会社ではなくて、学校の方で、年度初めに子ども達にバス通学に慣れてもらうための補助という意味での支援としてというのは考えられるかと思う。

保護者E	いろいろな心配であるとか、対応について言ったところだが、廿日市市は子育て世帯への支援は、近隣市町と比較しても充実していると思う。 他の市町村で事例がないので出来ないではなく、事例がないので私たちが先進的にやってみます。という姿勢でいろんな支援をしていただければ良いなと思う。 当然いろんな協議の中で出来ること出来ないことはあると思うが、少しでも不安を解消していただけるようにお互いの意見をちゃんと出し合えるような形で進めていけたらなと思う。
事務局	いただいた意見、要望に対しては教育委員会も検討していく。しかし、どうしてもやはりここは難しいというところについては、きちんとその考え方を言わせていただいて、その上で皆さんと話しをさせてもらいたい。
保護者F	人数が多いことによって、他のこどもの意見を聞いてそういう考え方があるんだなと気づくこともあると思うが、自分は、人数が多いと自分はもう別に発言しなくてもいいや、となることもあったので、教育委員会は複式学級が望ましくないと考えているが、自分は人数が少ないこと自体が良くない、とは思っていない。 例えば、多様な意見に触れるということで、今の時代であればオンライン授業などもできると思う。自分は複式学級でどのように授業が行われているのか、まだこどもが保育園なので見たことがない。親も一度小学校でどういう授業が行われてるのか見てみたいと思う。 意見というか感じたことだが、全国的に少子化が進み、統廃合になっている地域も多いと思うので、今は反対だが、仕方ないと思う部分もある。改めてどういう学校で、どういう風に育って欲しいかとか考えるきっかけにもなった。ただ、学校が遠いと、家庭のサポートも必要になってくる。皆さん仕事もある中で、特に1年生からスクールバスに乗って果たして通学できるのかという点でやはり不安が大きい。自家用車で送迎が必要になったらそれぞれの生活リズムだったり、こどもを一番に考えた仕事の仕方だったり、必然的に変わっていくんだろうと思う。 今、吉和保育園に通っていて、隣が小学校なので、慣れている場所で小学校に通わせられることは親として安心できるが、毎日30分バスに乗ってと考えるとやはり遠いと感じる。これは大人でもそうだと思う。 最後に、津田小学校の人数が現在どのくらいなのか聞きたい。
事務局	人数が少ないことが直ちに悪いとは思っていない。小規模校という言葉があるが、小規模校そのものを学校規模適正化の対象としていくわけではない。著しく人数が少ない学校に通うこども達の教育環境をよくしていこうというもので、我々もすごく大きな学校にしていきたいという想いで取

事務局

り組んでいるわけではない。

オンライン授業でもいいんじゃないかというようなご意見もあったと思うが、オンラインもたまに実施するというのであれば効果的だと思うが、やはり日々の授業を全てオンラインでということになってくると、先ほど説明させてもらったような、他のこどもの話だったり聞いて自分の考えを深めるというやり取りが難しい部分もあると思っている。時間を調整して、統合前の事前交流の手段の一つとして、オンラインを活用することはあり得ると思っている。

複式学級の授業をご覧になりたいということであれば、学校と調整が必要になるが、そういう機会を設定させていただきたいと思う。

バスの部分で保護者として低学年の間色々心配されるのは分かるが、我々としては子ども達が安全に通学できるよう、保護者の皆さんと相談しながら取り組んでいきたい。

最後に津田小学校の今の状況ということで、通常学級ベースで申し上げると、今年度、1学年あたり10人前後で、1年生から6年生で通常学級の児童数が56人である。

津田小学校については、今年4月から小規模特認校に指定して色々とPRの準備などを行っているところである。教育委員会もそういった取組を支援していくといった状況である。

保護者F

もう1点、雪の時期とかに山の中でもし事故が起きた場合、街であれば他の通行者の方とかいと思うが、山の中では発見してもらえないのも遅れるし大丈夫なのかと思う。雪が多く降る時期は添乗員をつけてもらうとかそういった対応はできないか。

事務局

どういうやり方になるかは事業者と今後調整していくことになるが、例えば事故をして発見されるかどうかということになると、添乗員もバスに乗っていると事故に巻き込まれるだろうと思う。本来の到着予定時刻にバスが来ない時にどういう形で確認するかについては、雪の時期に限らず確認方法をきちんと構築出来るようにしていきたい。

保護者A

夫の出身地であるスウェーデンのヤンという田舎の話を少しさせていただきたい。スウェーデンは「税金は高いが高福祉」のイメージがあると思うが、実際にはかなり福祉のレベルが落ちている。例えば、私が出産した時、県が九州ぐらいの大きさにもかかわらず出産できる病院はひとつしかなかった。もっと田舎の人は3時間かけて通院していたし、パトカーも2台しかなかった。税金は高いのに行政サービスもどんどんなくなっていた。

こどもが近くの学校に通うことが出来るというのは権利だと思う。

スウェーデンにいた時、教育の質も実際見たが高くなかった。それを見てきて、吉和にはそうなって欲しくない。学校がなくなるということは、

保護者A	若い世代が少なくなっていく。高齢化が一気に進み、これからの吉和はどうなるのかと思う。
事務局	学校というものがなくなることに対して色々な考えがあると思う。ただ我々は、吉和地域で暮らしているこども達がどういう形で学び、学校教育をどう提供していくかということで考えている。通学支援など必要な支援を整え、こども達にこれからも望ましい、複式ではない環境での教育を提供していくことが役割でもあるという風に思っている。意見を聞きながら我々も取組を進めていきたい。
保護者F	具体的にその統廃合の時期は決まっているのか。早くていつ頃になるのか。
事務局	今の時点でこの時期からというのは明言できない。まず地域の皆さん、保護者の皆さんと話をした上で進めていくというのが我々の考え方なので、あえていつというのは申し上げていない。 ただ、以前皆さんとの話し合いの中で、おおまかなスケジュールというのを提示させてもらった。大体これぐらいかかるだろうというものだが、具体的な詳細の検討を含め、1年半から2年半、これは事前交流も入れてだが、これぐらい時間はかかるというようなもの。もしすぐに検討を始めたとしても、早くて令和10年度からというような時期になると思う。 しかしながら、令和10年度からそういう風にしますということは申し上げていない。皆さんと話をして事前交流を実施していくには、時間がかかるということである。
保護者G	こどもが中学校に通っている。先ほどから他の方もおっしゃられているが、スクールバスで通学と言うのであれば、添乗員は絶対だと思う。望んでスクールバスで通うわけではない。統廃合によりスクールバスで行くしかないということなので、不安が解消するわけではないが、例えば授業の補助とかで支援員がついてくれるのと同じだと思っている。 添乗員がつくのは、もちろん低学年の子もそうだが、中学生にとっても安心する。大人が運転手しかいない中でスクールバスが不安なら自家用車で行けというのはおかしいと思う。 予算でつけるのかとか受益者負担なんだからバス利用者が頭数で割って払えという考え方もあるかもしれないが、そもそもバスで行けと言われて行くものなので、おかしいと思っている。これは意見なので回答は必要ない。 もう1つは、中学生の場合の学習評価、今まで何回かこういう会があったので、その中で出たかもしれないが、中2から中3のところで転校になった場合、もとの学校での内申は引き継がれるのか。

事務局

過去の説明会の記録を全部確認できていないが、今の話は今まで出てきてなかったと思う。他校から転校してきた場合の学習評価は基本的には引き継いでいる。加えて、その学校の基準に合わせて整理をするようにしていると思うが、統廃合の場合、それがそのまま流用になるかどうかというのはまた確認させていただきたい。

教育部長

本日は貴重な意見をたくさんいただき感謝している。
市教育委員会としては、今後の吉和の人数を見た時に、これを見て見ぬふりをするのは無責任であるという風に思って話し合いを持っているところ。なかなか具体的な、明確な回答が出来ていないことについては大変申し訳ないと思う。今後、代表の方々と具体的な話をしっかりと進めていきたいと思っている。

閉会